

## 前回の振り返り(グループディスカッションで出た意見)

### (1)グループ1(ファシリテート:内田会長)

- 子どもに対して意見を聴くことももちろん大事だが、あえて大人に話を聴くことも大事ではないか。子どもの権利を守っていくとき、まず大人に余裕がないのではないか。大人に時間も余裕もないから子どもの権利を実現していくことができないでいる。そんな大人の大変さをもっと大人から聴いてみることも大事だと思う。特に学校の先生にはゆとりや時間、余裕が本当にないので、話を聴いて改善策を考えていくことも必要ではないか。
- 大人というのはついつい子どもに失敗させないようにしてしまいがちで、子どもに対してつい先回りして何か言ったり行動したりしてしまうことがある。
- 子どもの話を聴いたあとは、フィードバックをしていくことが大切である。
- 中野区内で子どもの権利を先進的に意識して活動している団体にあえて話を聴いてみることで、何か得られるものがあるのではないか。
- 児童館では、大人は見守っていくこと、子どもが自ら考えて、遊び方のルールをつくっていくということを大事に意識して運営している。
- 子どもの権利に関心がない人や「権利と義務は一体だ」などと考える人に対して啓発やアプローチを行ったり、話し合いをしていくことが大事ではないか。
- 学校で行われている人権教育の中に子どもの権利や子どもの意見の表明、子どもの意見の尊重の視点がきちんと位置づいているかどうかを聴いてみたい。
- 昨今話題になっている生成系AIは子どもたちにどんな影響を与えているのだろうか。
- お互いが違う意見を話し合うということに、どれだけ価値を見出している子どもがいるだろうか。そういったことにあまり価値を見出していない子どもがいらないだろうか、そんなところに対するちょっとした危惧もある。

### (2)グループ2(ファシリテート:林委員)

- やはり子どもは周りを見て忖度していると思う。
- 対面よりメールの方が意見が出やすいが、一方で、メールだとネガティブな意見が出やすいのではないか。
- 大人側がまっさらな気持ちで聴くということ、子どもに向き合うことが大事だと思う。

- 子どもの興味のあることや好きなことを最初に聴くと、そこでいきなり子どものスイッチが入って意見が出やすくなることもある。
- 例えばスマホやタブレットの操作となると、子どもたちは学んでもいないのに大人がびっくりするぐらい使いこなしているので、子どもの得意なところを活躍の場として機会を設定するというのも良いのではないかな。
- 子どもが守られていると感じる雰囲気づくりが大事だと思う。
- 本題に入る前に子どもと仲良くなるのが大事だと思う。
- 子どもが安心できる距離感(近過ぎず、遠過ぎずという距離感)が大事である。
- ささいなことでも意見を聴くことが大事である。
- 子どもに聴きたいことをかみ砕いて説明するのが難しい。大人の言葉を子ども用に変換しようとしたときに、どのような言葉で説明すれば良いのか分からないことが実際にはある。
- 意見を聴くときに、何で聴くのかという背景を説明すること、その前段として、子どもにどういう権利があるのかということ、子どもには意見を言う権利があるんだということも併せて伝えていくことが大事である。
- 大人が暇そうにしていると子どもから声をかけられることが多い。大人が忙しくしていると子ども側が気を遣って意見を言ってくれないので、本当は暇ではなかったとしても、あえて暇そうにするのが大事である。
- 聴くタイミングに気をつけて、子どものペースで待つことも大切である。
- 利益関係のない人が聴くことも大事である。
- その場では意見が出なくても、後で言いたくなったときに「じゃあ、後で教えてね」という約束をしたり、その場合の連絡先を明示したりすることも大事である。
- 普段からささいなことで意見を聴くことが大事である。例えば、子どもが朝着ていく服を子どもに選んでもらうというのを毎日続けるということも、まずは意見を聴く、意見を表す身近な一歩になるのではないかな。